

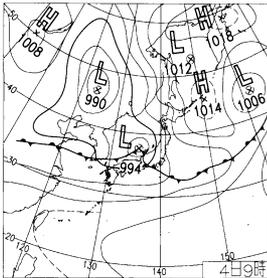
日々の天気図

— No. 42

2005年7月

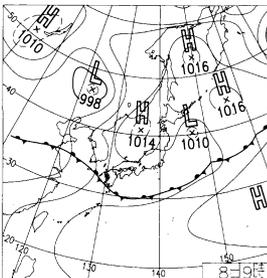
- 2日～14日、梅雨前線により西日本で連日豪雨。山口県柳井市348.5 mm/24 h、熊本県南小国323 mm/24 h、熊本県芦北町99.5 mm/1 h。
- 17日～19日、台風第5号により沖縄県と那国島54.8 m/sの瞬間風速。
- 30日、東日本で雷雨。群馬県富土見村で95.5 mm/1 h。

(気象庁予報部予報課)



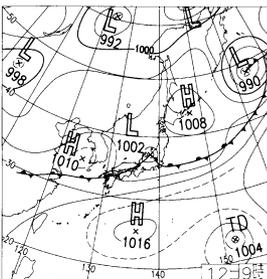
4日(月)ダム貯水率や回復

東日本、西日本は概ね雨。30 mm/1 h以上の雨が、朝は東海、夜は四国、九州で、福岡県柳川市では55 mm/1 h、四国、中国地方のダム取水制限は一時解除や制限緩和に。



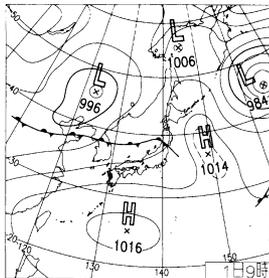
8日(金)九州南部で激しい雨

日本海の高気圧に覆われ、東北から近畿は晴れまたは曇り。梅雨前線は九州南部で停滞して活発。鹿児島県錦江町で73 mm/1 h、宮崎県都城で64.5 mm/1 hの非常に激しい雨。



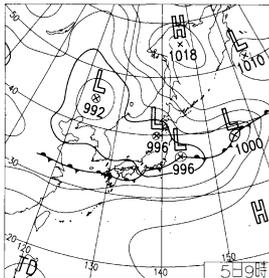
12日(火)関東の低温続く

前線の影響で、北陸で激しい雨。石川県かほく市で37 mm/1 h。関東は日中、北東気流で5月上旬～下旬並みの気温。水戸市の最高気温20.0℃、東海では真夏日。



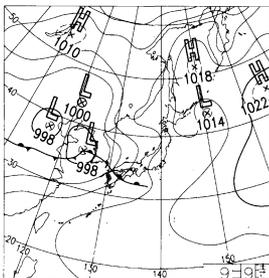
1日(金)梅雨前線活発化

北海道と南西諸島は晴れや曇り。その他は梅雨前線の活動が活発で雨や雷雨。日降水量は富山県立山町で167 mm、島根県益田市で128 mm。



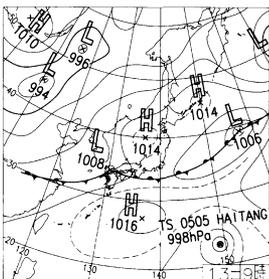
5日(火)北と南で大雨警報

ほぼ全国的に曇りや雨。熊本県内では、所々で非常に激しい雨。湯前町湯前横谷で67 mm/1 h。低気圧の影響で青森、函館でも大雨警報を発表。



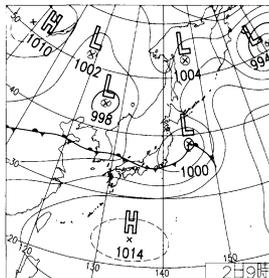
9日(土)梅雨前線が西から北上

九州で朝50 mm/1 hを超える非常に激しい雨。雨域は次第に東に拡大し、夕方には関東も雨。静岡市清水区で78.5 mm/1 h、長崎県新五島町で66 mm/1 h、横浜市で53 mm/1 h。



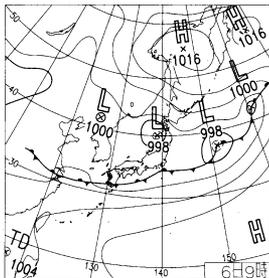
13日(水)台風第5号発生

梅雨前線は九州で活発。宮崎県えびの市で54 mm/1 h、福岡県久留米市で41 mm/1 hなどの激しい雨。関東の最高気温は平年より5～7℃低い所も。南島の南西海上で台風第5号発生。



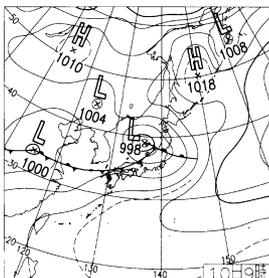
2日(土)中国・四国で大雨

西日本で梅雨前線の活動活発化。日降水量は徳島県美馬市竜王山で181 mm、島根県金城町で155 mm、その他は晴れや曇り。宇都宮市でヒグラシの初鳴。



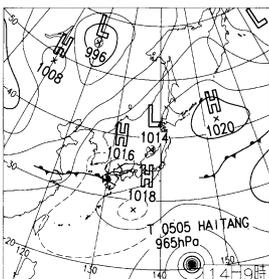
6日(水)九州で猛烈な雨

西日本から北日本にかけては大気不安定で雨や雷雨。梅雨前線は九州で活発化し熊本県芦北町で99.5 mm/1 h、鹿児島県さつま町で78 mm/1 hの非常に激しい雨。



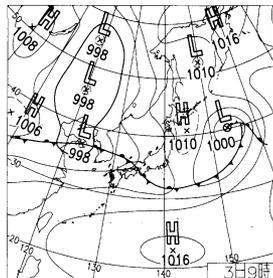
10日(日)熊本県で猛烈な雨

梅雨前線の影響で西日本の一部で大雨。熊本県南小国町98 mm/1 hの猛烈な雨を観測。東北は雨、南西諸島は晴れ、その他は概ね曇り。東京で12日ぶりの真夏日。



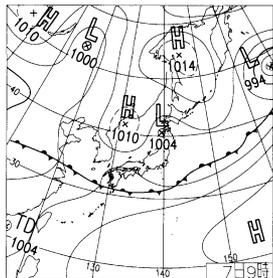
14日(木)梅雨前線東日本で弱い

東日本は曇りで気温低し。特に関東は前日に続き北東風が入り、東京の最高気温25.6℃で6月下旬並。梅雨前線で滋賀県大津市63.5 mm/1 h、名古屋などでアブラゼミ初鳴。



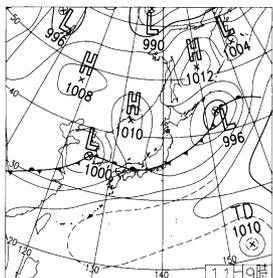
3日(日)山口・愛媛県で大雨

北日本は高気圧に覆われてほぼ晴れ。その他は梅雨前線の影響で曇りや雨。西日本で梅雨前線の活動が活発。愛媛県内子町で73 mm/1 h、山口県柳井市で348.5 mm/24 hの大雨。



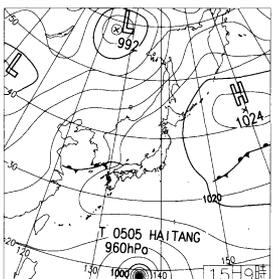
7日(木)神奈川県で落雷2人死亡

上空に寒気が入り、各地で雨や雷雨。東北地方から西日本にかけて所々で30 mm/1 h以上の雨。兵庫県西脇市で51.5 mm/1 h。西日本では平年よりやや早くヒグラシやアブラゼミの初鳴。



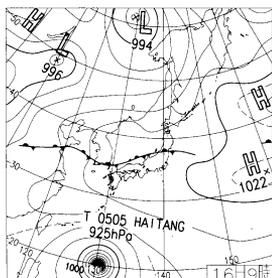
11日(月)東北太平洋側低温

本州付近は低気圧や前線の影響で曇りや雨。東北の太平洋側は最高気温が平年より5℃前後低い低温。西日本～東日本は真夏日。宮崎県延岡市で35.0℃。

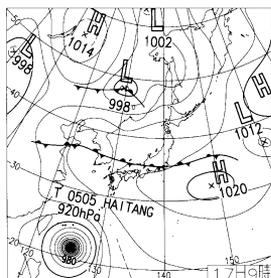


15日(金)各地で真夏日

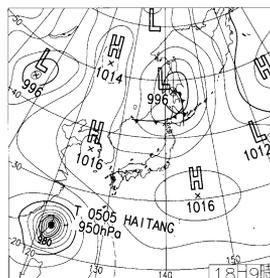
全国的に概ね晴れ。北日本の一部を除いて各地で真夏日。夜、関東北部で不安定。栃木県鹿沼市86.5 mm/1 h。太平洋沿岸で濃霧のため海難事故3件発生。九州南部の梅雨明けを発表。



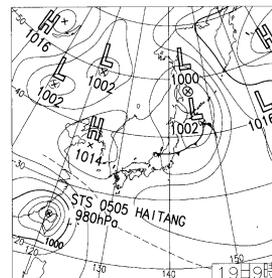
16日(土)四国の梅雨明けを発表
前線の停滞や大気不安定で曇りや雨で雷雨となったが晴れた所も、各地は連日真夏日で北海道紋別市でも、台風第5号は日本の南海上を西進し先島諸島は強風域に。



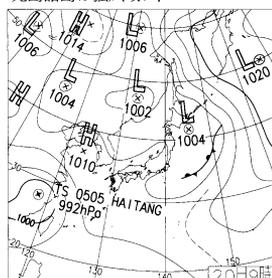
17日(日)先島諸島台風の暴風域
本州付近は大気不安定な状態が続き所々雷雨、長野県軽井沢町で6mmのひょう。その他は曇りや晴れ、各地は連続して真夏日。九州北部の梅雨明けを発表。



18日(月)中国～関東で梅雨明け
北日本を寒冷前線が通過、本州付近は梅雨前線が消え高気圧に覆われる。先島諸島台風第5号の影響で大荒れ、与那国島で最大瞬間風速54.8m/s、中国から関東甲信の梅雨明けを発表。

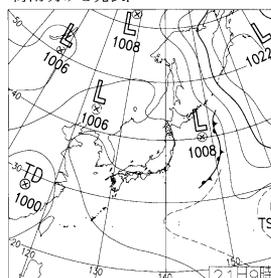


19日(火)東京最小湿度26%
の1位タイ記録。太平洋高気圧の勢力は黄海まで広がる。全国的に晴れや曇り、西日本を中心に最高気温が30℃以上。台風第5号は台湾を横断し台湾海峡に。



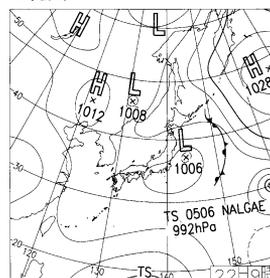
20日(水)台風第6号発生

北海道上空に寒気を持った低気圧が停滞し、北日本は曇りや雨で気温は6月中旬並み。西日本は晴れや真夏日。東日本は曇りだがさわやか。ウェーク島近海で台風第6号が発生。



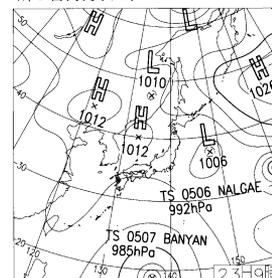
21日(木)各地で厳しい暑さ

西日本～東日本にかけては概ね晴れ。気温も各地で上昇し九州南部、中国、四国、近畿、東海、関東甲信にかけては真夏並みの暑さ。北日本は気圧の谷の影響で曇りや雨。



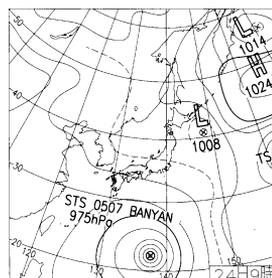
22日(金)台風第7号発生

東北地方太平洋側では、曇りや霧で気温は5月上旬～6月上旬並。東海以西は晴れて真夏日。鏡子沖では濃霧のため海難事故が発生。フィリピンの東で台風第7号が発生。



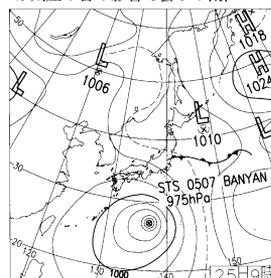
23日(土)東京で震度5強

三陸沖の低気圧の影響で関東から北の太平洋側は曇りで気温低く、関東は5月下旬並。東北は6月上旬～下旬並。一方西日本は晴れて真夏並。北陸の梅雨明けを発表。



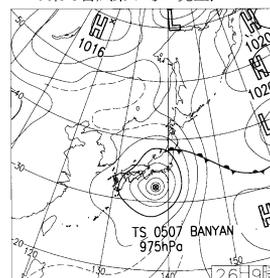
24日(日)東冷西暑

天気図には前線が描かれていないが、日本付近に気温差があり、最高気温が東日本で30℃以下、西日本は30℃以上。台風第7号は日本の南海上を北上中。横浜でミンゼミ初鳴。



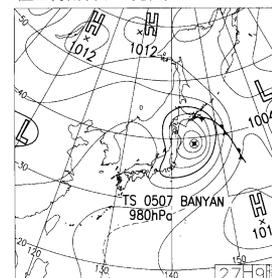
25日(月)大型の台風第7号北上中

日中は北日本～東日本は曇りや晴れ。西日本は晴れて真夏日。夜に紀伊半島～関東の太平洋沿岸で台風の外側の雲がかり、所々で断続的にやや強い雨。



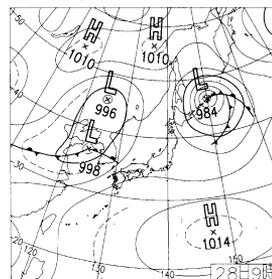
26日(火)台風第7号房総半島上陸

各地で台風の影響を受けたが九州と中国や四国で晴れ。静岡県伊豆市天城山で453.5mm/24hの豪雨。八丈島で最大瞬間風速33.0m/s。スペースシャトル打ち上げ成功。



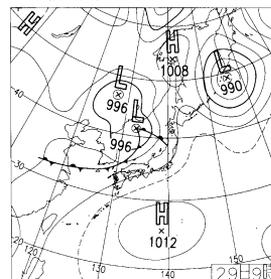
27日(水)台風一過

台風第7号が三陸沖を北上。北日本は風雨共にやや強い。関東から西は台風一過の晴天。西よりの風で関東中心に気温上昇。山梨県身延町で37.3℃。千葉県原市で36.9℃。



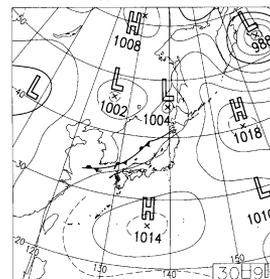
28日(木)台風第7号温低に

ゆるやかに高気圧に覆われて全国的に晴れ。北海道を除き気温上昇、真夏並の所多。岐阜県多治見市で37.0℃。北海道の東海上を北上した台風第7号は千島近海で温低に。



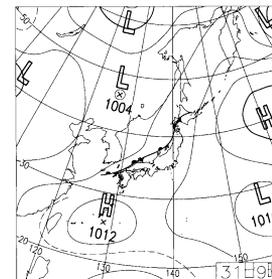
29日(金)低気圧と前線接近

このため北海道と西日本は雨。関東、東北や九州南部は晴れ。最高気温は札幌市22.7℃で7月上旬並み。宮崎市35.8℃。鹿児島市35.6℃。富山市35.4℃。名古屋市35.2℃は真夏並み。



30日(土)鹿児島県で豪雨

鹿児島県では西の海上から対流雲が流入。鹿児島市権現ケ尾130mm/3h。鹿児島市鹿屋では148mm/3hの豪雨。夕方から北陸、関東甲信、東北南部で雷雨。群馬県富士見村95.5mm/1h。



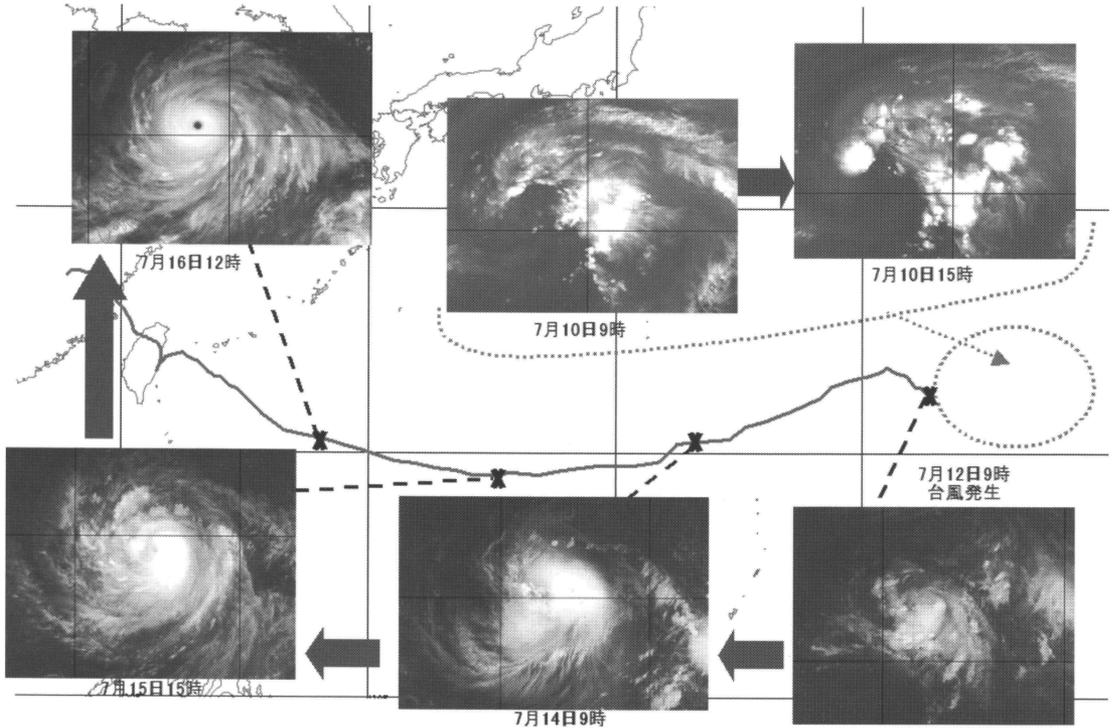
31日(日)千葉県で落雷4名負傷

ほぼ全国的に前線の影響や大気不安定な状態が続き曇りや雨、所々で雷雨。広い範囲で30mm/1hの激しい雨。長崎県島原市では72.5mm/1hの非常に激しい雨。



今月のひまわり画像—2005年7月

上層寒冷渦周辺で発生し発達した台風第5号



上段右から2枚の図は7月10日9時と15時の水蒸気画像、その他は7月12～16日までの赤外画像。太線は台風のベストトラック、×印は台風的位置を示す。

台風にはいくつかの発生形態があるが、その中の1つにUC型（上層寒冷渦近傍型）がある。その発生理由は寒冷上層渦の東と南象限に形成される上層発散場が、その南にあるITCZ（Intertropical Convergence Zone：熱帯収束帯）上の擾乱の発生及び初期の発達に好適な総観場を与えるためであると言われている。しかし、このパターンで台風に至るまで発達するケースは1年に1度あるかないかであり、大変少ない。台風第5号はこの稀なパターンで発生した。

7月10日9時の水蒸気画像を見ると上層寒冷渦が明

瞭であり、その東側でCbが発生している。その日の15時には上層寒冷渦付近にCbが発生し始め、12日9時には台風となった。上層寒冷渦周辺で発生した台風は成長に時間がかかり、発達しにくいという特徴がある。台風第5号もしばらく盛衰を繰り返していたが、14日以降その雲域を拡大させながら徐々に発達していき、16日の21時には中心気圧は915 hPaまで下がり、眼のはっきりとした台風となった。

（気象衛星センター）